

高知市地域アクションプランの進捗状況等について

H21. 9. 1

地域本部名 高知市地域

1 地域アクションプランの上半期の実施状況（総括）

(1) 総評

・全37項目（48シート）については、概ね実施計画どおり進捗している。（◎6事業、○32事業、△9事業、-1事業）

① 観光分野

- ・No. 35「龍馬伝」を契機とした観光の推進は、坂本龍馬ゆかりの史跡巡りを中心に新たなまち歩きコースについてのマップが完成し、6つの新たな観光ルートが設定できた。
- ・No. 31「映画を通じた「よさこい」発祥の地としてのアピールと観光客の誘致」はよさこいを舞台にした映画制作に対する県・市の支援が決定し、9月から映画撮影に入る予定である。
- ・No. 37「食による観光の推進と地域物産との連携」は、カツオ以外の食材で高知の強みである「食」を売り出すため、新しい名物料理の創出に向けて、現在アイデア募集を行っているところである。

② 商工業分野

- ・No. 26「中心商店街でのアンテナショップの開設」は事業実施主体であるまちづくり会社が立ち上がり、県内市町村の地産地消・外商を推進する拠点ができつつある。
- ・No. 24「コンテンツビジネスの創出」は、国事業の採択や新しい事業への申請支援等順調に進んでいる。
- ・No. 28「中心市街地における商業、観光等の基盤強化による都市機能の増進及び経済活力の向上」については、高知市において、現在計画策定に向けて取り組みを進めている状況であり、アンテナショップ以外具体的な動きはまだ出ていない。

③ 農業分野

- ・No. 6「ショウガの安定供給と消費拡大の取り組み」とNo. 1「地域の基幹品目の振興（新高ナシ）」では、加工品開発や販路拡大に取り組んでいる。
- ・No. 8「稲ホールクロップサイレージを核とした耕畜連携の推進と二期作文化の復活」は耕畜連携の仕組ができあがり、現在は当初の計画地域外までの広がりが出てきている。
- ・No. 7「田舎レストラン」による地産地消の推進については、都市開発審査会への申請までは順調であったが、運営主体・運営方法等について再検討が必要となっている。

④ 水産業分野

- ・No. 17「冷凍ドロメの販路拡大」は、他地域での取り組みに触発されて、具体的な取り組み計画を自らが策定するなど地元での検討のスピードが上がっている。

⑤ 林業分野

- ・No. 11「県産材の地域における需要拡大」については、治山ダムにおける木製残存型枠の適用を開始し、県産材の用途が拡大した。
- ・No. 12「木質バイオマスの活用に向けての取組」については、当初目指していた園芸農業での活用に課題が多い。

(2) 補助金及びアドバイザーの導入状況

地域アクションプランの項目名	補助金	アドバイザー
1 地域の基幹品目の振興（新高ナシ）	県	
2 ショウガの安定供給と消費拡大	県	
3 ユズを核とした中山間農業の活性化	総・国	
4 中山間地域の暮らしを支える集落営農の推進	県	
5 四方竹のブランド化による中山間地域の振興	県	

6	鏡川源流域での有機・無農薬Eco農業と葉草の里づくり	地・国	
7	「田舎レストラン」による地産地消の推進		ア
8	稲ホールクロープサイレージを核とした耕畜連携の推進と二期作文化の復活	総・国	
9	乳製品の開発による新しい酪農経営モデルの創出		ア
10	民有林における間伐の推進	国	
11	県産材の地域における需要拡大	県	
15	高知県漁協直販施設での鮮魚等の販売促進	総・県	
16	底曳網による漁獲物の利用及び消費の拡大	国	ア
24	コンテンツビジネスの創出	国	
26	中心商店街でのアンテナショップの開設	県・国	
27	安心・安全・快適な商店街づくり	国	
31	映画を通じた「よさこい」発祥の地としてのアピールと観光客の誘致	県	
32	観光情報の集約化と情報発信力の強化	県	
33	「エンジン01オープンカレッジ in 高知」の開催を契機とした交流人口の拡大	県(負)	
34	温泉開発による観光地としての魅力の向上	県	
36	アユ群れる清流鏡川などの天然素材を活かした観光客の誘致	国	
37	食による観光の推進と地域物産との連携	国	

※ 補助金 : (総) 県総合補助金、(地) 県地域づくり補助金、(県) その他県単補助金等、
(国) 国庫補助金等、(セ) 産振センター補助金等

アドバイザー：(ア) 産業振興アドバイザー、(工) 工技センターアドバイザー、(他) その他アドバイザー

2 地域アクションプランへの追加・修正(予定)項目等

(1) 21年度の修正項目

・現時点でなし

(2) 21年度の追加項目

・現時点でなし

(3) 21年度・22年度の追加に向けての検討項目

・現時点でなし

(4) その他

・地域本部に問い合わせが12件あったが、現時点ではいずれもアイデア段階のものが多く、内容の具体化が必要なことから、産業振興センターのアドバイザー制度、工業技術センターの活用などステップアップの方法を提案した。

3 今後の重点的な取り組み

- ・7月に立ちあがった「高知市地域資源活用共有会議」で提案がある新たな「玉出し」について、検討していく。
- ・No.19「土佐のものづくり企業による地産外商の推進」及びNo.20「工業分野における産業政策情報の一元化による競争力の強化」については、県が進めるデータベース化をもとに、ものづくりの地産地消を強力に推進していく。
- ・No.27「安心・安全・快適な商店街づくり」については、当初予定していたエコバック事業が順調に進み、さらなる広がりを検討していく必要がある。
- ・No.37「食による観光の推進と地域物産との連携」は、名物料理の創出に向けて、NPO法人と協働して取り組みはじめており、料理とあわせて高知県産材を使った間伐材の「箸」を新たな土産物として期待が出てきている。
- ・No.16「底曳網による漁獲物の利用及び消費の拡大」の取り組みを新たな資源として磨き上げ、No.35「龍馬伝を契機とした観光の振興」と連携させる計画が具体的な段階に入っている。